

会 議 議 事 録

会 議 名	令和 2 年度 学校関係者評価委員会		
開 催 日 時	令和 2 年 7 月 11 日 (土) 10 : 00 ~ 12 : 00		
会 場	東京医薬専門学校 第 1 校舎 601 教室		
参 加 者	委員等	5 人	(参加者名) 卒業生代表：田園調布中央病院 橋本 敦 業界代表：同愛会病院 加藤 亮 ：江戸川学校歯科医師会 室岡 孝二 高等学校関係者：拓殖大学紅陵高等学校 森 章 地域関係者：葛西仲町町会 高橋 茂夫 東京医薬専門学校：学校長 須田 英明 本部長 小川 昭久 事務局長 居関 暁昌 教務部長 西田 茂男 教務部長 仁村 将大 広報センター長 佐藤 祐子 キャリアセンター長 福田 昌彦 学部長 阿部 健 学部長 大山 遥
	事務局	9 人	
会 議 録	<p>(1) 学校長挨拶 (須田)</p> <p>本日はお忙しい中、またこのような環境、コロナ禍の中、学校関係者評価委員会にご出席いただき大変ありがとうございます。深く御礼申し上げます。</p> <p>私が所属している病院からもコロナ通信が送られてきており現在 66 報となっております。医療機関で働いている皆さまは全日大変なご苦労のことと思います。また、医薬研究者の皆さまも毎日 100 件近くの検体を検査しており感謝のお気持ち申し上げます。本日は忌憚のないご意見をいただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>(2) 委員自己紹介 (各自)</p> <p>上記出席者の自己紹介を実施</p> <p>(3) 学校関係者評価委員会趣旨説明 (居関)</p> <p>専門学校は学校制度の中、専修学校専門課程に該当します。専門学校数は現在 2,805 校、職業実践専門課程は 1,037 校になります。</p> <p>職業実践専門課程には幾つかの条件があり、1. 学科ごとに教育課程編成委員会を設置しカリキュラムを構成、2. 企業等と連携して演習・実習等の授業の実施、3. 企業等と連携して教員研修の実施、4. 企業等が参画して学校評価の実施、5. それらを情報公開することとなっています。</p>		

本校では 12 学科の内、10 学科が職業実践専門課程となっています。1 年制課程の学科は対象外になっているので、対象の全学科が認定されています。

本日の学校関係者評価委員の目的ですが、昨年度 2019 年の評価を本校で自己点検自己評価をさせていただき、事前に皆様に送付させていただきました。本日はその自己点検自己評価に対して、評価していただき、客観性を持ち、今後の学校運営の改善のための助言をいただきたいと思ひます。

自己点検自己評価の項目は 10 項目あります。

1. 教育理念・目的・育成人材像、
2. 学校運営、
3. 教育活動、
4. 教育成果、
5. 学生支援、
6. 教育環境、
7. 学生の募集と受け入れ、
8. 財務、
9. 法令などの遵守、
10. 社会貢献

また、2019 年度の評価なので本来は関係ないのですが、今このような状況ですので、最後にコロナ禍の 2020 年度授業運営の報告をさせていただきたいと思ひます。

(4) 評価

1. 教育理念・目的・育成人材像、
2. 学校運営 (居関)

お手元の評価表につきましては、自己点検自己評価を抜粋しているもので、本日はこの評価表に基づき、特に課題のある部分について説明させていただきます。まず、教育理念ですが、お手元の滋慶学園グループパンフレットにもありますが、滋慶学園は現在 76 校あり、本校はその中の 1 校であります。学園の「建学の理念」、「4 つの信頼」などをベースとして学園全体として強い理念や教育方針に基づき、「教育理念・目的・育成人材像」「学校運営」については、概ねできていると思ひます。

1-1-3,4 については、2022 年度より看護学科を新校舎にて開講します。現状の救急救命士科、臨床工学技士科も新校舎に移転し第 4 校舎となります。看護学科の計画申請が受理をされていて今月末から高校 2 年生向けのオープンキャンパスもスタートします。歯科衛生士科と医療事務以外の学科は大学が競合となっているが、学園として教育理念、学校運営の基盤があるのでしっかりしていると評価しています。

・質疑意見 なし

3. 教育活動、
 4. 教育成果、
 5. 学生支援、
- の教育部分 (西田)

教育活動については自己評価が低い、課題がある内容を中心に説明させていただきます。本校は平成 29 年度から授業改革に取り組んでいます。入学者が変わってきていることから、学生の成長を促すためには授業を変えていく必要が生じてきたという背景があります。具体的には、自己肯定感が低い方、精神的な不安のある方、学力差、考え方の多様化等が挙げられます。2019 年度の取り組みとして、授業改革の合言葉としているのが「楽しい授業」です。楽しい授業とは、面白おかしいと言うことではなく、授業が「わかった・できた」といったことで自信をつけてもらうことで、方法論として「アクティブラーニング的 (能動的) 授業をより多く」ということとなります。ベースとなる部分については、当然ながら知

識・技術をインプットさせ、試験でアウトプットして確認することですが、専門学校ではそれを実践しなければならず、教えなければならない「明示知」と、言葉等では表すことが困難な「暗黙知」があります。学園としては「授業は明示知を教えるとともに暗黙知を育む教員と学生の共同作業」と定義付けして、授業に取り組んでいます。

この授業を実践するために、授業デザインのベースにある「授業を考える6つの要素」のどこかを工夫して、学生が主体的に授業に取り組めるよう改善を図っています。具体的な例として、研修の実施、講師アドバイザー制度、おもしろ授業総選挙が挙げられます。おもしろ総選挙は、授業コンテストで学生からの投票(授業満足度)で選ぶもので、上位の先生は表彰もして学生にも公開しました。

また、これらを取り組んだ教育成果、結果として授業アンケートがあり、2019年度は過去4年、5段階評価で3.98→4.02→4.05→4.18と向上傾向です。

次に国家資格ですが、これは合格率が学科によって大変バラバラの現状です。何年も100%を続けている学科もあれば、昨年度は全国平均を下回ってしまった学科も4学科ありました。成果が上がる教育の水平展開が課題です。

退学者については、過去4年、3.8%~4.8%となっています。退学理由、退学要因が大変複雑化、多様化、重症化してきていて、様々な要因が絡んで意欲の低下になっています。

教育の課題は多様化する学生への対応、法令の養成所(施設)指定基準に対する教員数です。

・質疑意見

(森) 留学生が増加すると、日本人の学生が退学してしまうというケースを耳にしたことがあるがどんな状況か？

(小川) 本校は留学生割合が高くないので問題はない。グループ校に割合の非常に高い学校があるが、留学生の方が非常に学習モチベーション高く、そのモチベーションに日本人がついていけず、退学してしまふケースはある。

(橋本) 他校の退学率はどうか？

(小川) 分野によって違いがある、専門学校の平均10%と言われている。グループ内では医療系は以前3%だったが、近年は4%~7%。美容系は高い傾向にある

(橋本) 学科に違いはあるのか？

(西田) 固定されてこの学科の退学率が高いということはない。が、経年で見ると、人数が多いクラスの退学率が高くなるという傾向はある。精神的に不安定な学生の不適応があると、クラスが不安定になるケースがある。

(居関) 橋本さんの学生の頃はどうか？

(橋本) 自分が学生の頃は退学者が少なかった印象がある。

4. 教育成果、5. 学生支援の就職部分 (福田)

就職について昨年度の現状及び課題を説明します。昨年度、年度内に内定率96%。国家資格系は国家資格合格を優先させ、合格後に就職活動をスタートする学生もいるため、年度内100%になっていない。また、国家資格系と非国家資格系で少

し流れが違う。

国家資格系は当初年内の内定率を70%にしていたが65%。前年の64%よりは上がったが、早期内定に向けての動機付けが不足していた。

非国家資格系は年内80%を目標にしていたが75%。こちらも前年の73%より上がったが目標には届かず。技術系の求人確保や、留学生の就職支援など一般企業に就職する分野に苦戦した。

今後の対策としては、学科・職種の就職活動ピークに連動させた集団、個人への支援体制の強化、就職マニュアル・自己分析ワークシートの活用、この自己分析シートは新たに編集したもの。お手元の就職マニュアル、自己分析ワークシートになります。また、学科ごとの就職会議、留学生への早期就職支援、技術系の求人確保を行っています。

卒業後の就労状況については就労状況アンケートを実施して卒業生のサポートも行っています。

(居関) 学生支援 5-9-4 課外活動に対する支援については、国家試験等、学習に注力する学生が圧倒的に多く、学生からの希望が出てきたとき支援を検討する体制を取っている。

・質疑意見 なし

6. 教育環境 (居関)

Wi-Fiの環境が十分ではなかったことが昨年度までの課題であったが、ICT教育の充実を鑑みて、昨年全教室にWi-Fiとプロジェクターを設置しています。

・質疑意見 なし

7. 学生の募集と受け入れ (佐藤)

定員に達していない学科が5学科あるが、いわゆる既卒者(入学時、高校卒業見込み以外)を対象にした学科が定員に達していない。社会人、既卒者層取り巻く環境の変化がある。

・質疑意見

(居関) コロナ禍の現状で、高校では医療分野は危険だから辞めた方が良いという話はでてきているのか?

(森) 医療系は増える傾向にある。理容、美容、製菓などの分野が減少傾向にある。オンラインを活用した学校説明会は増えているが、対面で見ると感じてもらう方が良いと思う。また高校とも直接、積極的に関わったほうが良い。

(居関) 臨床工学技士はメディアでも取り上げられているがどうか?

(森) 最近では希望者も増えている。介護系は急激に落ち込んでいて、作業療法、理学療法は微妙に下がっている傾向。臨床は増加傾向。看護はかなり増えている。

(加藤) 医療系はある程度覚悟がないと難しいかも。テレビドラマ等の影響もあるが、覚悟なく就職すると継続が難しいかも。実習等はどこまで指導しているのか?

(西田) 実習の中でヒヤリハットはしているが、そこまでが出来ているかは…。

8. 財務、9. 法令などの遵守、10. 社会貢献 (居関)

学園として取り組んでいる。お手元の学園パンフレットをご確認ください。

・2020年度新型コロナウイルス感染症の発症に伴う取り組み報告 (仁村)

学園としてもICTを活用した遠隔授業をスタート。本校も5月7日から開始しました。各学科の授業内容、学生特性を考慮して、Zoomやoffice365のTeamsを併用しています。学園全体としてリアルタイム型30%、オンデマンド型70%の現状です。須田学校長も実際に歯科の授業で実施していますが、どうですか？

(須田)リアルタイム型、オンデマンド型はそれぞれメリット、デメリットがある。リアルタイム型は印刷物が減るので職員の労力が減っているのではないかと思うが、著作権の問題が心配で気を遣う。オンデマンド型は学生が何度も見直しができるので、試験前の復習などには大変良いのではないか。

ここで実際に行った遠隔授業の様子をご覧ください。

今回の遠隔授業については、必要に迫られて開始したものであるが、教育成果、教育効果の向上を考えると大きな可能性を感じます。学生支援や授業改善、効率化などの活用を検討していきます。

7月以降の登校については、6月29日～都立高校の一斉登校が開始したことを受け、当初は7月中に本校でも一斉登校を開始予定であったが、最近の状況を鑑みて現状、分散登校を継続しています。

また、医療系の学科が多いので現場での臨地実習は6月1日の文部科学省、厚生労働省の通知などを参考に実施、検討している。本校で取り入れているのは、(2)模擬実習、(3)臨床推論能力の養成を目的とする授業、(4)症例検討や動画視聴、シミュレーターによる技能学習、(5)実習の臨床実習予習ノートを用いたe-Learningによる在宅学習、(7)臨床実習指導者参加型遠隔指導システムを活用し、書面や動画を含めて臨床推論指導を実施、(8)実習先講師を招聘し、実習先での状況や実習を行った時の対応など、通常より現場に近い授業演習を実施などです。学生が役割分担するなどにより、学内でのロールプレイを通じて技術を修得しています。

・質疑意見 なし

(5) 総評 (委員の方から個別に意見をいただく)

(加藤) 学生は20代、30代が多いのか？

(居関) 新卒が6割、既卒が4割。既卒者の年齢層は様々。

(加藤) それでは、まさに今広がっている若者世代が多いですね。

(居関) 除菌、手指消毒、座席の間隔空ける、換気などを実施しているが、現状の感染状況を見ながら登校の判断をしていきたい。だが、実技・実習は対面でないとは実施できないものも多く悩ましいのが現状。

(加藤) やはり実技授業、実習は難しいですね。

(高橋) 学生が多い地域は悪さをするケースが多いと聞くが、葛西はそうでもない。留学生も心配であったが、地域で外国の方を受け入れているところも多く、

真面目な方も多いので問題ない。

(室岡) 学校としては、今は感染者を出さないことが大事。配信授業を活用していくことが大切ではないか。臨地実習については、今はどうしようもないのではないか。他の学校からも実施ができないと聞いている。今は安全第一で気を付けてください。

(橋本) 医療機関、介護は経営的にも厳しい状況になりつつある。段階的に規模を縮小する医療機関が出てくることが予想される。卒業生へのフォローアップ(再就職支援)をもう少し打ち出す方が良いのではないか。学校の卒業生への取り組みが分かると、広報にも繋がるのではないか。また、保護者の人は学校がどのような対策、予防をしているのか不安な人も多いのではないか。保護者の方向けにも発信が必要ではないかと感じる。

(森) 同じ学校として全てが他人事ではない。高等学校は通信制があるので、全日制との違いが分からなくなる。以前は大勢の人数がいる環境が難しい学生が通信制に切り替える人がいたが、今は遠隔授業が導入されて出席できている。今回学校の取り組みを聞いて、本校でも取り入れられることは取り入れていきたいです。

(6) お礼の挨拶 (小川)

本日は大変お忙しい中、またこのような中、学校関係者評価委員会にご参加賜り誠にありがとうございました。滋慶学園では理事会を年に数回開催しているが、この学校関係者評価委員会で意見を伺い、学則を変更したいという意見・議案は大変多い。学園全体では 36,000 人の学生が在籍している。初めてのコロナ禍という環境下で、どのように対応し対策していくか考えなければならない。この 3, 4 か月の遠隔授業等の取り組みで教員は疲弊してきている様子が見られる。ただ、試行錯誤の状況で、学生からもっと不安不満が出るかと思ったが予想以上に出ていないのが状況です。今後も継続していきたい。

・ 諸連絡 (居関)

評価表につきましては、この後ご提出ください。

以 上